



文化財のこと

教育長 津野庄一郎

11月3日の文化の日だったでしょうか。渡邊邸（国指定重要文化財）の前を通ると戸口が少し開いて、中を覗くと受付台に、品のある和服姿の女性（当主の奥様）おり、「今日は無料だから観て行きなさい」と声を掛けてくださいました。中に一步足を踏み入れば、そこは江戸時代にタイムスリップしたような異空間。全国屈指の大地主渡邊家の威容さにたまげたことを覚えています。

秋の下関祭礼（大蔵神社）は、引きまわしの^{たいわ}大輪やお囃子^{はやし}等も渡邊家が京都から取り寄せて伝えたことされ、祭り当日は、渡邊家の正面に大輪、踊り子山車、神輿^{たし}等が集結します。昭和42年の羽越水害で往時のものはすっかり流されましたが、復元されて今に至ります。毎年お盆が過ぎる頃、対象年の男どもは神社の^{はいでん}拝殿（今は下関集落センター）に集められ、地元の年配の方から太鼓や鉦^{かね}をみっちり教わります。（還暦を過ぎた爺が「チェーロレ、チェーロレ…」と口ずさんでカホーンを叩くと、子どもや孫たちがはしゃぎます。）

もう一つ佐藤邸（国指定重要文化財）。ここは重厚な茅葺^{かやぶき}屋根が特徴で、渡邊邸の石置き木羽葺^{こほぶき}屋根とは違った趣があり実に見事です。そして、津野邸（県指定文化財）を合わせた旧米沢街道の撞木造りの町並み景観は、いわば関川村の個性であり、魅力です。さらに東桂苑（村指定文化財）、上関城址、安養寺脇の番所跡、越後三峠等の歴史的なストーリーを紡いで内外に発信していけば、子どもたちの誇りにもつながるのではないのでしょうか。

有形・無形の文化財や伝統文化を未来につなぐというのは、容易なことではありません。今、日本の少子高齢化が進む中、これらをいかに維持し、磨き上げていくかが大きな課題です。



<【写真】上：渡邊邸主屋内 下：下関大祭の大輪引き回し>